

平成11年度活動報告

近畿六大学春季リーグ戦

◇4月5日甲南大グラウンド

神外大	0	0	0	0	0	0
甲南大	2	1	1	0	6	10

(外)横江・小野・藤田
(甲)赤穂・尾崎
▽三塁打 玉木(甲)
▽二塁打 稲田・則本・赤穂(甲)
※5回コールド

◇4月7日舞洲ベースボールスタジアム

神商大	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	1	1	0	2

(商)平田・新矢
(甲)初山・下東・尾崎・石井

◇4月9日尼崎記念公園野球場

大経大	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

(経)工藤・川久保・入谷
(甲)赤穂・下東・尾崎・石井
▽二塁打 屋嘉部・舛田・植木(経)
西村(甲)

◇4月12日尼崎記念公園野球場

和 大	0	0	0	0	2	0
甲南大	3	3	5	0	1	×

(和)下地・岡本・片岡
(甲)河南一石井
▽二塁打 小口(和)久次米・河南(甲)
※5回コールド

◇4月14日グリーンスタジアム神戸サブ球場

甲南大	1	0	0	0	3	2	0	0	0	6
近 大	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3

(甲)赤穂一石井
(外)山田一栃尾
▽二塁打 西村・則本(甲)

◇4月16日尼崎記念公園野球場

甲南大	0	3	2	2	0	0	0	1	0	8
神外大	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

(甲)初山・下東・尾崎・石井
(外)小野・横江・藤田
▽本塁打 尾崎・稲田(甲)
▽二塁打 西村(甲)奥村(外)

◇4月21日グリーンスタジアム神戸サブ球場

甲南大	0	2	0	1	0	0	0	0	3
大経大	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(甲)下東・尾崎
(経)工藤・入谷
▽三塁打 森田(甲)
▽二塁打 則本・西弘(甲)

◇4月26日久宝寺緑地野球場

甲南大	0	1	1	2	0	3	2
神商大	1	1	0	0	0	0	0

(甲)初山・下東・赤穂・尾崎・高嶋・尾崎
(商)安高・新矢
▽本塁打 則本(甲)
▽三塁打 石野(甲)伊田(甲)▽二塁打 篠原(商)
※7回コールド

◇4月28日舞洲ベースボールスタジアム

近 大	0	4	0	1	1	2	8
甲南大	2	0	0	0	0	1	3

(近)竹井・山田一栃尾
(甲)赤穂・下東・河南一石井・尾崎
▽三塁打 阪本・中(近)
▽二塁打 財津・佐々木(近)
※6回時間切れ

◇4月30日尼崎記念公園野球場

甲南大	1	1	2	1	0	1	3	0	0	9
和 大	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

(甲)初山・河南一尾崎・石井
(和)岡本・片岡

【表彰選手】

最高殊勲選手 竹井 輝隆 (近 大)
最優秀投手 竹井 輝隆 (近 大) 5試合 5勝0敗 防御率 0.96
最多勝利投手 竹井 輝隆 (近 大) 5試合 5勝0敗
首位打者 栃尾 篤司 (近 大) 24打数 13安打 打率0.542
打点王 竹井 輝隆 (近 大) 打点 15
本塁打王 竹井 輝隆 (近 大) 3本
盗塁王 下川原和博 (大経大) 盗塁数 12
敢闘賞 工藤 慶樹 (大経大) 5試合 3勝1敗 防御率 1.32

【打撃十傑】

- 1 栃尾 篤司 (近 大) 0.542(24-13)
- 2 竹井 輝隆 (近 大) 0.484(31-15)
- 3 尾崎 真哉 (甲南大) 0.455(22-10)
- 4 小口 洋司 (和 大) 0.444(27-12)
- 5 西村 洋平 (甲南大) 0.421(19-8)
- 6 大原 宏理 (大経大) 0.417(24-10)
- 6 新矢 智昭 (神商大) 0.417(24-10)
- 8 植木 順一 (大経大) 0.411(34-14)
- 9 下川原和博 (大経大) 0.400(35-14)
- 10 舛田 浩司 (大経大) 0.387(31-12)

【ベストナイン】

(投) 竹井 輝隆 (近 大)
(捕) 栃尾 篤司 (近 大)
(一) 舛田 浩司 (大経大)
(二) 中谷 俊貴 (大経大)
(三) 小口 洋司 (和 大)
(遊) 玉木 健一 (甲南大)
(外) 原 誠作 (近 大)
(外) 下川原和博 (大経大)
(外) 植木 順一 (大経大)

チーム名	近畿大	甲南大	大経大	和歌山大	神商大	神外大	勝敗
近畿大	●○	○○	○○	○○	○○	○○	9勝1敗
甲南大	○●	●○	○○	○○	○○	○○	8勝2敗
大経大	●●	○●	●○	○○	○○	○○	7勝3敗
和歌山大	●●	●●	●●	●○	○○	○△	2勝7敗1分
神商大	●●	●●	●●	●●	●○	○●	2勝8敗
神外大	●●	●●	●●	●△	●○	○●	1勝8敗1分

ブロック大会

◇5月8日兵庫教育大グラウンド

甲南大	4	5	1	3	0	13
産業技術短大	0	1	0	0	0	1

◇5月15日大泉緑地公園球場

和歌大	0	0	1	0	0	0	1
甲南大	3	4	0	1	0	2	×

◇5月29日寝屋川第1球場

大阪府立大	1	0	0	0	0	1
甲南大	1	0	3	4	1	0

◇5月30日住之江公園

甲南大	0	0	2	0	0	0	0	0	2
同志社大	0	0	0	0	1	2	0	×	3

平成12年度 — 大学野球部の活動報告

＜平成11年＞

秋季リーグ戦 戦績報告 8勝1敗1分け(31回目の優勝)

"創部50年目のチーム"

主将・高橋 優

9月1日	尼崎記念公園野球場					二塁打	
神戸商科大	0 0 1 2 1 0 0 1 0	5					
甲南大	0 0 0 0 0 1 0 0 0	1		初山・下東・石井		森田・高嶋	
9月3日	久宝寺緑地公園野球場 (5回コールドゲーム)					三塁打	二塁打
和歌山大	0 0 0 0 0	0				尾崎	尾崎・久次米
甲南大	1 1 7 0 1 X	10X		下東・石井			森田・下東
10月1日	尼崎記念公園野球場					二塁打	
大阪経済大	0 0 0 0 0 2 0 0 0	2					
甲南大	0 0 2 0 0 0 0 0 0	2		下東・玉木・尾崎・石井		久次米	
10月6日	舞洲ベースボールスタジアム						
神戸市外国語大	0 1 0 1 0 0 0 0 0	2					
甲南大	1 0 1 0 0 0 2 0 X	4		初山・尾崎			
10月8日	久宝寺緑地公園野球場					三塁打	
甲南大	0 0 0 0 0 0 1 0	1		下東・尾崎		玉木・西村	
近畿大	0 0 0 0 0 0 0 0	0					
10月12日	尼崎記念公園野球場					二塁打	
甲南大	0 0 0 1 0 0 0 1 0	2		初山・尾崎		玉木	
神戸商科大	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0					
10月15日	尼崎記念公園野球場 (7回コールドゲーム)					本塁打	三塁打
甲南大	2 4 0 2 1 0 6	15		下東・石井		尾崎	梶本 西村
和歌山大	0 0 0 0 0 0 0	0					
10月18日	尼崎記念公園野球場					本塁打	
甲南大	1 0 2 0 0 0 0 2	5		下東・玉木・尾崎・石井		尾崎	
大阪経済大	0 0 0 2 0 0 0 2 0	4				高橋	
10月26日	久宝寺緑地公園野球場 (7回コールドゲーム)					三塁打	
甲南大	0 2 0 2 0 2 1	7		初山・下東・尾崎・石井			
神戸市外国語大	0 0 0 0 0 0 0	0				梶本	
10月29日	住之江球場					二塁打	
近畿大	0 1 0 0 0 0 0 0 0	1				西村	
甲南大	2 0 0 0 3 0 0 0 X	5		下東・尾崎・石井		高橋・尾崎	

今年のチームは50周年という節目のチームということもあり、「これまでのよき伝統にプラスして、我々からもっとより良い伝統を築いていこう」を合言葉にし、目標を「全国大会出場、その過程として秋・春のリーグ戦優勝」に置き、新チームをスタートさせました。

新チームのメンバーは16人しかおらず、しかも特に際立った選手もいなくて、どんなチームになるか不安だらけでした。今までと同じ事をしていても、とても目標達成などはおぼつかないと思ひ、野球に対する意識改革をし、精神的に強く、団結力のあるチーム作りを考えました。新チーム結成後間もなく監督が代わり、監督と主将である私は野球観やチーム強化の方針などについて十分話し合い、①精神面の充実②基本の徹底③考える野球の3つを「キャッチフレーズ」に不可能を可能にすべく練習に取り組みました。

練習は、まず基礎体力からということで、ランニング量などは今までの2倍以上はこなし、シーズンを通して走り込みや筋トレは続けました。中でも冬の15km走や春合宿での全体メニュー終了後のロング走(距離は3km程だったが後半1.5kmの坂道はきつかった)は非常に辛かったが、今思うとこれらが体力的、そして何より精神的に鍛えられた源になったと思います。

春合宿を通して、ようやくチームの団結力が高まり、チーム力もついて来た様に思います。そして技術的にも精神的にも万全とまではいかないまでも、新チーム結成時と比べると「格段の違い」を手応えとして感じながら春季リーグ戦に臨み、31年振りの全勝優勝を果たすことが出来ました。

続いて行われた関西選手権大会では、残念ながら2回戦立命館大学に敗れ(1回戦は不戦)優勝は出来ませんでした。以後敗者復活戦を3連勝し、全日本選手権大会出場を決めました。もう負けられないというプレッシャーの中で戦い、接戦をもに出来たことで、又一つチームが強くなったと思います。

全日本選手権大会ではあくまで優勝を目標に頑張りたいと思います。それには夏の厳しい練習に耐え、より精神的、技術的、体力的に向上せねばならないと思っています。そして自分達がやってきたことに自信をもって試合に臨みたいと思います。

我々がここまで来れたのも、監督・コーチや諸先輩方の指導と支えがあって、恵まれた環境の中で野球をすることができたからだと思っています。私は、この甲南大学体育会準硬式野球部に入って本当に良かったと思います。

素晴らしい伝統の中で、野球を通して成長することができたし、とてもいい人間関係が作れたと思います。そして、何よりも創部50年目のチームの主将を務めさせて頂いたことは、めぐり合わせとはいえ、生涯忘れることのないものであると思います。本当にありがとうございました。

秋季関西大会

11月4日	舞洲ベースボールスタジアム					二塁打	
奈良県立医科大	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0					
甲南大	0 0 0 1 0 0 0 0 X	1		下東・尾崎		玉木・冨田	
11月6日	久宝寺緑地公園野球場					三塁打	
龍谷大	1 0 0 0 0 2 2 0	5				梶本	
甲南大	0 0 0 0 0 0 1 0 0	1		下東・尾崎・石井		久次米	

平成11年11月12日

学習院定期戦(11月12日、於・学習院大)

甲南大	0 1 0 0 2 0 7 1 7	18					
学習院大	0 0 0 2 1 2 0 0 0	5		初山・中井・下東・石井			
						三塁打	久次米・尾崎
						二塁打	玉木・梶本

12月1日～9日 関西選抜チームオーストラリア遠征
甲南大からも8選手が参加

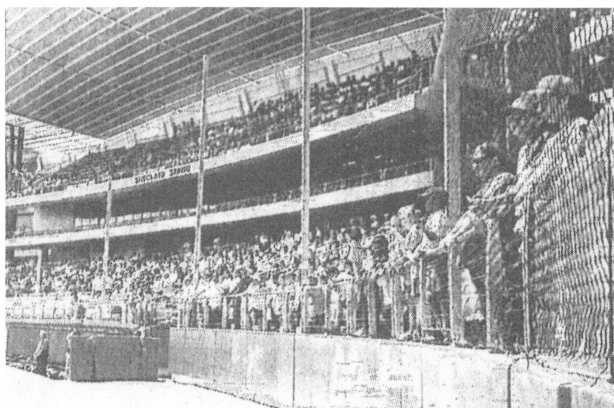
肌で実感！野球熱の高まり

関西地区大学準硬式野球連盟が訪豪

関西地区大学準硬式野球連盟の選抜チームが、昨年十二月一日から9日間の日程でオーストラリアを訪れ、現地の硬式プロチームなどと親善試合を行った。近畿六大学連盟の甲南大からはエース赤穂友治ら、8選手が帯同。今秋にシドニー五輪開催を控えたオーストラリアで、試合や現地での生活を通じて野球熱の高まりを実感した。

(久保田 輝)

教え教えられた
「民間親善大使」



プロチームとの親善試合では、約7000人の子どもたちがスタンドを埋めた—12月8日、オーストラリア・シドニーのオリンピックスタジアム

関西地区連盟が海外遠征するのは9年ぶり。プロリーグが存在するオーストラリアだが、一般レベルとしての野球は発展途上のため、野球の振興と、国際親善を目指すオーストラリア野球連盟が招待する形で実現した。遠征メンバーは、関西に本拠を置く各リーグから選抜。昨年のプロ野球ドラフト会議で、西武ライオンズに指名された青木勇人投手(向大)も参加した。選抜チームは、プリズベーン、メルボルンとシドニーで各2試合を行い、通算成績は3勝2敗1分けと「野球先進国」のプライドは死守した。もっとも、ス

十二月七、八日に行われた、現地のプロチーム「シドニー・ストーム」との対戦には、約七千人の小、中学生が会場のオリンピックスタジアムへ観戦に訪れた。「インング毎に歓声が上がると、野球熱のすごさを肌で感じた」と下東俊之投手。初戦で惜敗したもの、二戦目では理想的な試合運びで会心の勝利を収め、スタンドから大きな拍手が沸き起こった。



シドニー・ストームとの試合終了後の挨拶

昨年インターコンチネンタル大会で、オーストラリアがキューバを破り世界一になったことで、野球の競技人口も十代を中心に、急速に増えている。稲田一憲内野手は「日本より熱心に野球のことを聞いてきた。カーブやフォークの握りを教えてほしいとせがまれたし、本当に野球が好きなんだな」と感心した」と話す。

今回の遠征では、試合のほかにも現地学生との懇親パーティーや即席の野球教室など、民間親善大使の役目も果たした。約二十万円の参加費用は、ほとんどが個人負担になったが、どの選手も「機会があれば、またぜひ参加したい」と声をそろえた。

【参加メンバー】

- | | |
|-----------|-----------|
| 赤穂友治 (4年) | 稲田一憲 (4年) |
| 則本 学 (4年) | 尾崎真哉 (3年) |
| 下東俊之 (3年) | 高嶋健次 (3年) |
| 高橋 優 (3年) | 森田大介 (3年) |
| 監督・高島 日出雄 | |
| コーチ・吉岡 環 | |

<平成12年 春季リーグ戦：31年振り全勝優勝!!>

4月3日	住之江公園野球場	二塁打 梶本・尾崎
神外大	000 010 200 3	森田・西村
甲南大	110 400 20X 8	下東・内藤-石井
4月5日	舞洲バースポーツスタジアム	
和歌山大	010 000 000 1	
甲南大	000 002 10X 3	下東-石井
4月8日	グリーンスタジアム神戸サッカースタジアム	三塁打 尾崎・久米
神商大	000 100 000 1	森田
甲南大	010 013 10X 6	二塁打 石井
4月10日	尾崎記念公園野球場 (8回コールド)	
大経大	000 100 00 1	
甲南大	100 100 33 8	下東-石井
4月12日	尾崎	三塁打 下東
近畿大	001 010 000 2	
甲南大	110 000 20X 4	下東-石井
4月14日	尾崎	二塁打 尾崎・西村
甲南大	000 010 014 6	内藤・萩山・玉木-石井
神外大	000 000 000 0	
4月18日	尾崎 (7回コールドゲーム)	三塁打 玉木・梶本
甲南大	420 120 1 10	二塁打 森田・下東
和歌山大	000 000 0 0	梶本・澤村
4月21日	尾崎 (7回コールドゲーム)	本塁打 玉木
甲南大	212 012 0 8	三塁打 森田
神商大	000 000 0 0	二塁打 石井・高橋
4月25日	グリーンスタジアム神戸 (7回時間切れ)	三塁打 玉木
甲南大	001 010 0 2	二塁打 尾崎
大経大	000 001 0 1	
4月28日	久宝寺緑地公園野球場 (7回コールドゲーム)	本塁打 下東
甲南大	050 203 0 10	三塁打 玉木
近畿大	100 020 0 3	二塁打 橋本

甲南大9連勝

近畿6大学準硬式

軟式野球の近畿6大学準硬式春季リーグ(神戸新聞社後援)第九日は二十五日、グリーンスタジアム神戸で3試合を行い、甲南大が大経大に2-1(七回時間切れ)で勝って全勝を守った。甲南大は二十八日の最終節で、近大に勝つか引き分ければ、2季連続32度目の優勝を決める。

連続Vに王手

甲南大

○：甲南大が開幕からの連勝を9に伸ばし、2季連続Vに王手。エース下東が緩急自在の投球で七回1失点と好投。打線も三、五回に効率よく得点し、大経大に力の差を見せつけた。二十八日の対近大2回戦(大阪・久宝寺)は、今シーズンの優勝決定戦になる。1回戦では快勝しているが、高島監督は「どちらも打てるチームじゃない。先発の下東に、すべてを託す」と話していた。

甲南大、全勝でV

近六準硬式野球

軟式野球の近畿6大学準硬式春季リーグ(神戸新聞社後援)最終日は二十八日、久宝寺公園野球場で3試合を行った。これまで9連勝の甲南大は近大を10-3の七回コールドゲームで退け、2季連続32度目の優勝を10戦全勝で飾った。

甲南大(10勝)10-3近大(8勝2敗)大経大(6勝4敗)神商大(3勝7敗)和歌山大(10敗)甲南大・高島日出雄監督の話 下東がよく投げた。打線も強豪の近大相手にまとまっていた。関西地区大会(6月10日開幕、舞洲ほか)までにもう一度気持ちを引き締め直して、全国大会を目指したい。





H.12 年 4 月 28 日 優勝旗を手にし!! (4 回生全員と監督)

第52回全日本大学準硬式野球選手権大会出場成る (2年振り21回目) !!

<関西選手権大会兼全国大会予選 — 神戸新聞他より>

立命(関西六大学) 00000030001 1/3
 甲南大(近畿六大学) 0000000000 0/4
 (立) 鈴木、高見、脇山(甲)
 下東、柳山、石井、三壘打
 門司(立) 尾崎(甲)

▽敗者復活1回戦
 同大(関西六大学) 0000000000 1/4
 甲南大(近畿六大学) 010001000x 2/0
 (同) 大島、垂水(甲) 下東
 上石井、三壘打 渡部(同)
 石井(甲)

◆関西地区大学準硬式野球選手権大会開幕「平成12年度関西地区大学準硬式野球選手権大会」(本社後援)が10日、大阪市・舞洲ベイスポートスタジアムで開催。この日は1回戦、2回戦それぞれ1試合ずつ行われた。上位ほか5チームが全日本選手権に出場する。

▽敗者復活2回戦 甲南大 7-0 関大II部、関大 13-5 大阪医大

▽第3代表決定戦 竜谷大(京滋六大学) 0000120000 3/1
 甲南大(近畿六大学) 01120002x 6/3
 (竜) 下畑、倉島(甲) 下東
 柳山、石井、三壘打 竹中
 (竜) ▽二壘打 木田(竜)
 森田、高橋2(以) 甲

▽第4代表決定戦 関大 (関西六大学) 15-4 (六回コールドゲーム) 大商大(阪神六大学)

(甲) 南大と関大は八月十七日から長崎県営球場などで開かれる全日本大学準硬式選手権に出場



防御率0.72でリーグ最高殊勲の選手になった下東一神戸市東灘区向洋町中の甲南大六甲アイランドグラウンド

きょうから関西地区準硬式野球選手権

優勝狙える甲南大

初戦のあす立命と対戦

攻守にバランスが取れ、全が全勝優勝を果したエリートも視野に、準硬式野一、スズキ、石井、三壘打、竹中、森田、高橋2(以) 甲、柳山、石井、三壘打、渡部(同) 石井(甲)

「全日本大会」(高橋主将と意気込んでいる。久保田、甲南大は今季リーグ戦でも、好調の原因は分からない。変化球でファウナを取れ球をあたりに感でい。

- 二純雄 司環 卓人 樹優 哉介 次之 樹子 美子 も之一 太平 隆治 吾啓 嘉郎 奈味 行彦 一啓 二稔 也隆 文之 かり 里
- 順弘 出 日憲 幸秀 康茂 真大 健俊 直美 昌智 と敬 健良 洋 孝真 元一 健玲 真克 和純 周 拓吉 宏隆 ゆかり 江
- 村西 島本 岡橋 嶋友 田橋 崎田 嶋東 村本 田 邨山 木西 村藤 井米 口橋 本田 岡河 尾本 本田 野田 風原 井中 屋
- 西大 高松 吉高 小住 長高 尾森 高下 沢竹 多異 西粉 玉中西 内石 久寺 岡梶 前本 十杉 橋坂 安菅 池北 小平 北新
- 問長 督 一 チ
- 顧問 一
- 主将 (4回)
- 副将 ()
- 主務 ()
- 4回生
- 3回生
- 2回生
- 1回生